

認定看護師教育基準カリキュラム
 (特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)
改正概要

分野	新生児集中ケア		
分野特定年	2001 年	認定開始年	2005 年
カリキュラム検討期間	2018 年 6 月～2019 年 3 月		
【改正趣旨】			
<p>新生児集中ケア分野の教育基準カリキュラムは 2012 年度の改正から 6 年が経過したため、見直しを行った。その結果、1 教科目の時間数は研修者の負担を考慮し 15 時間または 30 時間を基本にするという考え方にに基づき、60 時間で設定されていた教科目「新生児集中ケア方法」は「新生児集中ケア方法Ⅰ」と「新生児集中ケア方法Ⅱ」に分割し、各 30 時間の設定に変更した。また、単元に内容を追加した。</p>			
【主な改正箇所】 ※詳細は別紙「新旧対照表」参照			
<p>1. 目的 認定看護師の役割に沿って文言を整理した。</p> <p>2. 期待される能力 他の分野と揃え、表記を整理した。</p> <p>3. 専門科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧の教科目 3「新生児集中ケア方法 (p.6)」(60 時間)を教科目 3「新生児集中ケア方法Ⅰ」(30 時間)と教科目 4「新生児集中ケア方法Ⅱ」(30 時間)の 2 つの教科目に分けた。 ・旧の教科目 3「新生児集中ケア方法 (p.6)」の単元 9 - (2)「ストレスサイン」に「安定化サイン」を追加し、ストレスサイン・安定化サインに変更した。 			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

【目的・期待される能力】

旧	新	改正理由
<p>(目的)</p> <p>1. 急性期にあるハイリスク新生児とその家族の QOL 向上に向けて、<u>水準の高い看護を実践する能力を育成する。</u></p> <p>2. <u>新生児集中ケア分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導・相談ができる能力を育成する。</u></p>	<p>(目的)</p> <p>1. 急性期にあるハイリスク新生児とその家族の QOL 向上に向けて、<u>熟練した看護技術を用いて水準の高い看護実践ができる能力を育成する。</u></p> <p>2. 新生児集中ケア分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して<u>指導</u>ができる能力を育成する。</p> <p>3. <u>新生児集中ケア分野において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 旧の目的1は、他分野と揃え文言を整理した。 旧の目的2に「指導」と「相談」の2つの役割が入っていたため、新しい目的2と3に分けた。また、他分野と揃え文言を整理した。
<p>(期待される能力)</p> <p>1. 新生児の病態の急激な変化を予測し、重篤化を予防するとともに、生理学的安定を図ることができる。</p> <p>2. 新生児の障害なき成育のために神経行動学的な発達を促すための個別化されたケアを実施することができる。</p> <p>3. 心理的な危機状態に直面している家族が、子どもとの関係を築けるよう支援することができる。</p> <p>4. 急性期にあるハイリスク新生児とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。</p> <p>5. より質の高い医療を推進するため、<u>他職種</u>と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。</p> <p>6. 新生児集中ケア領域の看護実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への<u>指導・相談</u>を行うことができる。</p>	<p>(期待される能力)</p> <p>1. 新生児の病態の急激な変化を予測し、重篤化を予防するとともに、生理学的安定を図ることができる。</p> <p>2. 新生児の障害なき成育のために神経行動学的な発達を促すための個別化されたケアを実施することができる。</p> <p>3. 心理的な危機状態に直面している家族が、子どもとの関係を築けるよう支援することができる。</p> <p>4. 急性期にあるハイリスク新生児とその家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。</p> <p>5. より質の高い医療を推進するため、<u>多職種</u>と協働し、チームの一員として役割を果たすことができる。</p> <p>6. 新生児集中ケア領域の看護実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への<u>指導・相談対応</u>を行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旧のねらい5の「他職種」は、看護職を含めた多くの職種との協働の意味を表すため、他分野と揃え表記を変更した。 旧のねらい6の文言を他分野と揃え表記を整理した。

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

【共通科目】

旧		新		改正理由
教科目	時間数 必修/選択	教科目	時間数 必修/選択	
1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	1. 医療安全学：医療倫理	15（必修）	2018 年度共通科目改正のとおり変更した。
2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	2. 医療安全学：医療安全管理	15（必修）	
3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	3. 医療安全学：看護管理	15（必修）	
4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	4. 臨床薬理学：薬理作用	15（必修）	
5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	5. チーム医療論（特定行為実践）	15（必修）	
6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	6. 相談（特定行為実践）	15（必修）	
7. 指導	15（必修）	7. 指導	15（必修）	
8. 医療情報論	15（必修）	8. 医療情報論	15（ <u>選択</u> ）	
9. 臨床薬理学：薬物動態	15（ <u>選択</u> ）	9. 臨床薬理学：薬物動態	15（ <u>選択</u> ）	
10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（ <u>選択</u> ）	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	30（ <u>選択</u> ）	
11. 特定行為実践	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）	11. 特定行為実践	<u>15</u> （ <u>選択</u> ）	
12. 対人関係	15（ <u>選択</u> ）	12. 対人関係	15（ <u>選択</u> ）	
13. 臨床病態生理学	<u>45</u> （ <u>選択</u> ）	13. 臨床病態生理学	<u>40</u> （ <u>選択</u> ）	
14. 臨床病態生理学演習	<u>15</u> （ <u>選択</u> ）	14. 臨床推論	<u>45</u> （ <u>選択</u> ）	
15. 臨床推論	45（ <u>選択</u> ）	15. 臨床推論：医療面接	15（ <u>選択</u> ）	
16. 臨床推論：医療面接	15（ <u>選択</u> ）	16. フィジカルアセスメント：基礎	30（ <u>選択</u> ）	
17. フィジカルアセスメント：基礎	30（ <u>選択</u> ）	17. フィジカルアセスメント：応用	30（ <u>選択</u> ）	
18. フィジカルアセスメント：応用	30（ <u>選択</u> ）	18. 疾病・臨床病態概論	<u>40</u> （ <u>選択</u> ）	
19. 疾病：臨床病態概論：5 疾病	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）	19. 疾病・臨床病態概論：状況別	<u>15</u> （ <u>選択</u> ）	
20. 疾病・臨床病態概論：その他の主要疾患	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）			
21. 疾病・臨床病態概論：年齢別・状況別	<u>30</u> （ <u>選択</u> ）			
計	<u>120</u> （+360）	計	<u>105</u> （+305）	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

【専門基礎科目】 ※ゴシック体表記は、救急看護または集中ケアとの合同講義が可能な単元

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
1. 新生児集中ケア概論	30	1) 新生児医療、看護の現状と変遷について理解できる。 2) 新生児集中ケア認定看護師に求められる能力と専門性を踏まえた役割および組織における位置づけを系統的・体系的に理解できる。 3) 新生児集中ケア領域における倫理的課題について理解できる。 4) 新生児集中ケアに必要な法的知識と医療経済及び社会的資源の活用について理解できる。 5) 新生児集中ケア領域におけるチーム医療の実際と協働を理解できる。	1) 新生児医療・看護の現状と変遷 2) 新生児集中ケア認定看護師の役割 3) 新生児集中ケア領域の倫理的課題 4) 新生児集中ケアに必要な法的知識と医療経済（診療報酬を含む） 5) 新生児集中ケアにおける社会資源の活用 6) チーム医療における協働	1. 新生児集中ケア概論	30 (必修)	1) 新生児医療、看護の現状と変遷について理解できる。 2) 新生児集中ケア認定看護師に求められる能力と専門性を踏まえた役割および組織における位置づけを系統的・体系的に理解できる。 3) 新生児集中ケア領域における倫理的課題について理解できる。 4) 新生児集中ケアに必要な法的知識と医療経済及び社会的資源の活用について理解できる。 5) 新生児集中ケア領域におけるチーム医療の実際と協働を理解できる。	1) 新生児医療・看護の現状と変遷 2) 新生児集中ケア認定看護師の役割 3) 新生児集中ケア領域の倫理的課題 4) 新生児集中ケアに必要な法的知識と医療経済（診療報酬を含む） 5) 新生児集中ケアにおける社会資源の活用 6) チーム医療における協働	
2. フィジカルアセスメント	30	1) 新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識を理解できる。 2) 新生児の発達生理を理解できる。 3) 新生児のフィジカルアセスメントを理解できる。	1) 新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識 (1) モニターの値・検査結果の判読 (2) 生理学のおよび行動学的観察 2) 新生児の発達生理 (1) 人の発生と胎児発育 (2) 出生前の環境と予後への影響 3) 新生児のフィジカルアセスメント (1) 健常新生児のフィジカルアセスメント (2) 低出生体重児のフィジカルアセスメント	2. フィジカルアセスメント	30 (必修)	1) 新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識を理解できる。 2) 新生児の発達生理を理解できる。 3) 新生児のフィジカルアセスメントを理解できる。	1) 新生児のフィジカルアセスメントの基礎知識 (1) モニターの値・検査結果の判読 (2) 生理学のおよび行動学的観察 2) 新生児の発達生理 (1) 人の発生と胎児発育 (2) 出生前の環境と予後への影響 3) 新生児のフィジカルアセスメント (1) 健常新生児のフィジカルアセスメント (2) 低出生体重児のフィジカルアセスメント	
3. 新生児集中ケアにおける臨床薬理	15	1) 新生児集中ケア領域で用いる薬剤とその作用を理解できる。	1) 新生児期の薬物動態と薬理作用 2) 新生児集中ケア領域で用いられる薬剤	3. 新生児集中ケアにおける臨床薬理	15 (必修)	1) 新生児集中ケア領域で用いる薬剤とその作用を理解できる。	1) 新生児期の薬物動態と薬理作用 2) 新生児集中ケア領域で用いられる薬剤	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
					必修/選択			
4. 安全管理	30	1) リスクマネジメントに必要な知識を理解し、事故の予防と対策、発生時の対処を理解できる。 2) 災害対策について理解できる。 3) 医療機器の原理および安全な取り扱いについて理解できる。 4) 薬品管理・与薬の安全管理について理解できる。 5) 感染予防の原理・原則を理解できる。 6) 新生児の特徴を理解し、二次感染の予防について理解できる。	1) リスクマネジメント (1) リスクマネジメントに必要な知識 (2) 新生児集中ケア領域の事故の種類と要因 2) 環境・設備と安全対策 (1) 事故予防のための環境設備 (2) 災害対策 3) 医療機器と安全 (1) 医療機器の原理と使用法 (2) 医療機器の保守点検と管理 4) 薬品管理・与薬の安全対策 (1) 薬品管理 (2) 与薬法 (3) 与薬事故対策 5) 新生児集中ケアにおける感染対策 (1) 感染予防の原理・原則 (2) 新生児の免疫学的特徴 (3) 感染対策	4. 安全管理	30 (必修)	1) リスクマネジメントに必要な知識を理解し、事故の予防と対策、発生時の対処を理解できる。 2) 災害対策について理解できる。 3) 医療機器の原理および安全な取り扱いについて理解できる。 4) 薬品管理・与薬の安全管理について理解できる。 5) 感染予防の原理・原則を理解できる。 6) 新生児の特徴を理解し、二次感染の予防について理解できる。	1) リスクマネジメント (1) リスクマネジメントに必要な知識 (2) 新生児集中ケア領域の事故の種類と要因 2) 環境・設備と安全対策 (1) 事故予防のための環境設備 (2) 災害対策 3) 医療機器と安全 (1) 医療機器の原理と使用法 (2) 医療機器の保守点検と管理 4) 薬品管理・与薬の安全対策 (1) 薬品管理 (2) 与薬法 (3) 与薬事故対策 5) 新生児集中ケアにおける感染対策 (1) 感染予防の原理・原則 (2) 新生児の免疫学的特徴 (3) 感染対策	
5. ハイリスク新生児の親の理解	30	1) 危機理論の視点から家族にとっての出産・育児の意味およびケアを理解できる。 2) ハイリスク新生児をもつ親の心理を理解しアセスメントおよびケアが理解できる。 3) 周産期における虐待予防の重要性を理解し、予防的なケアが理解できる。	1) 母性と父性の理解 2) ハイリスク新生児をもつ家族の体験の理解とケア (1) 早産児の親（多胎児を含む） (2) 障害のある子どもをもつ親 (3) 子どもを亡くした親 (4) 不妊治療を経験した親 3) 周産期からの虐待予防	5. ハイリスク新生児の親の理解	30 (必修)	1) 危機理論の視点から家族にとっての出産・育児の意味およびケアを理解できる。 2) ハイリスク新生児をもつ親の心理を理解しアセスメントおよびケアが理解できる。 3) 周産期における虐待予防の重要性を理解し、予防的なケアが理解できる。	1) 母性と父性の理解 2) ハイリスク新生児をもつ家族の体験の理解とケア (1) 早産児の親（多胎児を含む） (2) 障害のある子どもをもつ親 (3) 子どもを亡くした親 (4) 不妊治療を経験した親 3) 周産期からの虐待予防	
6. ストレスマネジメント	15	1) 様々なストレス理論を理解し、実践できる。	1) ストレスマネジメント理論と活用 2) ストレスコーピング理論と活用	6. ストレスマネジメント	15 (必修)	1) 様々なストレス理論を理解し、実践できる。	1) ストレスマネジメント理論と活用 2) ストレスコーピング理論と活用	
計	150			計	150			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

【専門科目】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
					必修/選択			
1. 新生児の病態とケア	30	1) 急性期にあるハイリスク新生児に起こりうる特徴的な疾患について理解し、個別的なアセスメントとケアを理解し実践できる。	1) 呼吸・循環不全とケア 2) 感染症とケア 3) 中枢神経障害とケア 4) 代謝障害とケア 5) 極・超低出生体重児のケア 6) 外科的疾患とケア 7) 先天性心疾患とケア	1. 新生児の病態とケア	30 (必修)	1) 急性期にあるハイリスク新生児に起こりうる特徴的な疾患について理解し、個別的なアセスメントとケアを理解し実践できる。	1) 呼吸・循環不全とケア 2) 感染症とケア 3) 中枢神経障害とケア 4) 代謝障害とケア 5) 極・超低出生体重児のケア 6) 外科的疾患とケア 7) 先天性心疾患とケア	
2. 新生児集中ケア技術論	15	1) 新生児集中ケア領域におけるエビデンスに基づく看護技術を理解し、実践できる。	1) 新生児集中ケア技術の特性 2) 新生児集中ケアにおける看護技術 排泄援助技術、活動休息援助技術、清潔・衣生活援助、呼吸循環を整える技術、創傷管理技術、与薬技術、環境調整技術、食事援助技術、症状生体機能管理技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術	2. 新生児集中ケア技術論	15 (必修)	1) 新生児集中ケア領域におけるエビデンスに基づく看護技術を理解し、実践できる。	1) 新生児集中ケア技術の特性 2) 新生児集中ケアにおける看護技術 排泄援助技術、活動休息援助技術、清潔・衣生活援助、呼吸循環を整える技術、創傷管理技術、与薬技術、環境調整技術、食事援助技術、症状生体機能管理技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必修/選択	教科目のねらい	単元	
3. 新生児集中ケア方法	60	1) 蘇生技術の方法と適用を理解し、実践できる。 2) 人工呼吸器の原理と呼吸管理の方法と適用を理解し、実践できる。 3) 急性期の理学療法について、ガイドラインに基づく呼吸理学療法と体位保持の方法と適用を理解し、実践できる。 4) 体温管理の方法と適用を理解し、実践できる。 5) 水分電解質管理・栄養管理の方法と適用を理解し、実践できる。 6) 皮膚ケアの方法と適用を理解し、実践できる。 7) 授乳（搾乳）の方法と適用を理解し、実践できる。 8) ファミリーセンタードケアの方法と適用を理解し、実践できる。 9) ディベロップメンタルケアの方法と適用を理解し、実践できる。 10) 鎮痛の方法と適用を理解し、実践できる。	1) 蘇生技術の基本と実際 2) 人工呼吸器の原理と呼吸管理の実際 3) 急性期の理学療法 (1) 呼吸理学療法 (2) 体位保持 4) 体温管理の実際 5) 水分電解質管理の実際・栄養管理 6) 皮膚ケアの実際 7) 授乳（搾乳）の実際 8) ファミリーセンタードケアの実際 (1) 家族の心理 (2) 家族関係のアセスメント (3) 介入方法 9) ディベロップメンタルケアの実際 (1) AIs の共作用モデルと神経発達 (2) <u>ストレスサイン</u> (3) 安定化のためのケア（タッチケア、カンガルーケア、光・音の調節等） (4) ディベロップメンタルケアの実際上の課題 10) 鎮痛法の実際 (1) 知覚の発達 (2) 痛みのアセスメント (3) 薬理的鎮痛法 (4) 非薬理的鎮痛法	3. 新生児集中ケア方法Ⅰ	<u>30</u> (必修)	1) 蘇生技術の方法と適用を理解し、実践できる。 2) 人工呼吸器の原理と呼吸管理の方法と適用を理解し、実践できる。 3) 急性期の理学療法について、ガイドラインに基づく呼吸理学療法と体位保持の方法と適用を理解し、実践できる。 4) 体温管理の方法と適用を理解し、実践できる。 5) 水分電解質管理・栄養管理の方法と適用を理解し、実践できる。 6) 皮膚ケアの方法と適用を理解し、実践できる。	1) 蘇生技術の基本と実際 2) 人工呼吸器の原理と呼吸管理の実際 3) 急性期の理学療法 (1) 呼吸理学療法 (2) 体位保持 4) 体温管理の実際 5) 水分電解質管理の実際・栄養管理 6) 皮膚ケアの実際	・旧の教科目「新生児集中ケア方法」の 60 時間は 1 教科目として長時間であるため、「新生児集中ケア方法Ⅰ」、「新生児集中ケア方法Ⅱ」の 2 つの教科目に分割した。 ・旧の単元 9) 「ディベロップメンタルケアの実際」では、「ストレスサイン」とともに安定化サインが臨床重要であるため、単元に追加し、「ストレスサイン・安定化サイン」に変更した。
				4. 新生児集中ケア方法Ⅱ	<u>30</u> (必修)	1) 授乳（搾乳）の方法と適用を理解し、実践できる。 2) ファミリーセンタードケアの方法と適用を理解し、実践できる。 3) ディベロップメンタルケアの方法と適用を理解し、実践できる。 4) 鎮痛の方法と適用を理解し、実践できる。	1) 授乳（搾乳）の実際 2) ファミリーセンタードケアの実際 (1) 家族の心理 (2) 家族関係のアセスメント (3) 介入方法 3) ディベロップメンタルケアの実際 (1) AIs の共作用モデルと神経発達 (2) <u>ストレスサイン・安定化サイン</u> (3) 安定化のためのケア（タッチケア、カンガルーケア、光・音の調節等） (4) ディベロップメンタルケアの実際上の課題 4) 鎮痛法の実際 (1) 知覚の発達 (2) 痛みのアセスメント (3) 薬理的鎮痛法 (4) 非薬理的鎮痛法	

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
 新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
					必修/選択			
4. 新生児集中ケア指導	15	1) 看護職者に対して効果的な指導ができるよう指導方法を理解し実践できる。 2) 看護職者に対して、自身の実践した指導について、評価できる。	1) 新生児集中ケアの指導案作成（1例） 2) 指導の実際 3) 指導の評価	5. 新生児集中ケア指導	15 (必修)	1) 看護職者に対して効果的な指導ができるよう指導方法を理解し実践できる。 2) 看護職者に対して、自身の実践した指導について、評価できる。	1) 新生児集中ケアの指導案作成（1例） 2) 指導の実際 3) 指導の評価	・教科目の番号を修正した。
計	120			計	120			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

【学内演習】

旧				新				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数 必須/選択	教科目のねらい	単元	
学内演習	60	1) 新生児集中ケア領域における個別化されたケアの検討が実践できる。 2) 日常業務における潜在的な課題を抽出し、解決方法を導き出す能力を理解し実践できる。 3) 新生児集中ケア認定看護師としての活動を具体的に他者へ伝える方法を理解し実践できる。	1) 文献演習 2) 事例検討 ※①から④の中から選択して行う。 (1) グループ討議 (2) 個別的看護過程の展開 ①NICUにおける初期ケア ②極低出生体重児のケア ③疾病新生児のケア ④初期急性期における家族への看護 3) 臨地実習で受け持った事例に関するケースレポート作成とプレゼンテーション	学内演習	60 (必修)	1) 新生児集中ケア領域における個別化されたケアの検討が実践できる。 2) 日常業務における潜在的な課題を抽出し、解決方法を導き出す能力を理解し実践できる。 3) 新生児集中ケア認定看護師としての活動を具体的に他者へ伝える方法を理解し実践できる。	1) 文献演習 2) 事例検討 ※①から④の中から選択して行う。 (1) グループ討議 (2) 個別的看護過程の展開 ①NICUにおける初期ケア ②極低出生体重児のケア ③疾病新生児のケア ④初期急性期における家族への看護 3) 臨地実習で受け持った事例に関するケースレポート作成とプレゼンテーション	
計	60			計	60			

認定看護師教育基準カリキュラム（特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関）
新旧対照表（新生児集中ケア分野）

改正箇所：下線部

【臨地実習】

現行				改正案				改正理由
教科目	時間数	教科目のねらい	単元	教科目	時間数	教科目のねらい	単元	
					必須/選択			
臨地実習	180	1) 新生児集中ケア認定看護師に必要な実践・指導・相談方法について理解し実践できる。 2) 急性期にあるハイリスク新生児とその家族に対して倫理的配慮を理解し実践できる。 3) 他の看護職者および医療チームメンバーとの円滑な人間関係を保ち、指導・相談の役割を理解し実践できる。	1) ケーススタディ（親へのケアを含む） (1) NICUにおける初期ケア（1事例） (2) 極低出生体重児のケア（1事例） (3) 疾病新生児のケア（1事例） 2) 新生児集中ケア指導の実施 教科目「新生児集中ケア指導」で作成した指導案の実施	臨地実習	180 (必修)	1) 新生児集中ケア認定看護師に必要な実践・指導・相談方法について理解し実践できる。 2) 急性期にあるハイリスク新生児とその家族に対して倫理的配慮を理解し実践できる。 3) 他の看護職者および医療チームメンバーとの円滑な人間関係を保ち、指導・相談の役割を理解し実践できる。	1) ケーススタディ（親へのケアを含む） (1) NICUにおける初期ケア（1事例） (2) 極低出生体重児のケア（1事例） (3) 疾病新生児のケア（1事例） 2) 新生児集中ケア指導の実施 教科目「新生児集中ケア指導」で作成した指導案の実施	
計	180			計	180			

共通科目	120 時間（+360 時間）
専門基礎科目	150 時間
専門科目	120 時間
学内演習	60 時間
臨地実習	180 時間
総時間	630 時間（+360 時間）

共通科目	105 時間（+305 時間）
専門基礎科目	150 時間
専門科目	120 時間
学内演習	60 時間
臨地実習	180 時間
総時間	615 時間（+305 時間）